

魅力と活力ある



北国の地域づくり・まちづくり

広大な北海道は、一つの同質的な地域ではなく、気候、人口、産業、歴史、文化等が異なる多様で個性豊かな地域から成り立っており、それぞれの地域資源を活かして独自性のあ
る発展を遂げていくことが必要です。

また、地域の成長力を高めていくためには、国際的な魅力を高め、東アジアを始め内外
の諸地域との交流を発展させる取組を進め、様々な連携が相乗効果を生み出すようネット
ワークを強化していくことが重要です。

釧路・根室地域は、恵まれた自然環境、良質な生産基盤や美しい景観等、地域資源の適
切な保全を図りながら、地域の誇りとしてその魅力や特性を最大限活用し、住民、企業、
行政の協働により地域が一体となって地域社会を形成していくことが重要となっています。



ボランティア・サポート・プログラム (VSP)



～ 高校生ボランティアによる快適な道づくりの創出を支援～

「ボランティア・サポート・プログラム」は、北海道開発局が管理している国道を対象として、住民グループや商店街等が「実施団体」となり、地域の歩道の清掃や、歩道に設置された街路樹等の美化、冬期除雪作業等のボランティア活動を支援するプログラムです。

釧路開発建設部では快適な道づくりのため、「釧路工業高校」及び「白糖高校」の生徒さんに滑り止め材を提供し、バス停での散布を行っていただいています。



生徒からのメッセージ

バス停はいろいろな人が使うので、より安全に利用できるように、自分たち冬期VSPに参加している工業生で頑張って砂を散布していきたいと思います！！



生徒からのメッセージ

初めて参加しましたが、町民にも喜ばれる意義あることだと思います。自分はバスを使いませんが、誰もが自然に撒いてくれるようになればうれしいです。



旅客船をおもてなしします

せんんに せんんに せんんに
～ 釧人が船人をもてなす千人の波～



毎年10隻程度の旅客船が寄港する釧路港では、平成23年3月に新たな旅客船ターミナルの供用開始を予定しています。

今まで、旅客船の乗客等に対する地域のホスピタリティが発展途上であり、市民による歓迎が少ない状況でした。

そこで市民が歓送迎イベントに参加する機会を創ることにより、みなとへの関心を高め、ホスピタリティの向上を図るとともに、地域の賑わいを創出するため、官民の多様な主体が連携した「釧路港おもてなし倶楽部」を結成し、旅客船の寄港時に近接する観光交流施設と連動した歓送迎イベントを展開しています。





活力ある地域社会モデルの形成



～ 北海道に適した新たなバイオマス資源の導入促進に関する調査の実施～

北海道開発局では、地域環境への負荷低減と地域の持続的な発展を同時に実現するため、寒冷な北海道に適し、食料需給に影響しないバイオマス資源(資源作物)の導入に関する安定的生産・利活用システムを確立し、その導入を促進するための調査・検討を行っています。

この調査は、バイオマス資源作物として木質系植物利活用の可能性を追求するため、ヤナギ(エゾノキヌヤナギ・オノエヤナギ)に着目し、生物的な検討を行うとともに新しい技術を用いた加工・利用、地域産業との連携構想等の検討を行うものです。

これに伴い、白糖町に試験ほ場を設け、ヤナギに関する生物的データや収穫までの栽培技術に関する検討を行っています。

平成21年度までの調査結果

抽出実験では、ヤナギ400グラムからエタノール100ミリリットルが生産された。

エゾシカに新芽を食われてしまう被害が出たためシカ柵を設置した。

水産系廃棄物(イカゴロ・ホタテのウロ・ヒトデ)をたい肥として活用した結果、ヒトデの生育が最も良かった。

など

❖ 大型機械によるヤナギの収穫作業試験を実施 ❖

平成21年度は、農業用機械(サトウキビハーベスタ・デントコーンハーベスタ)を用いて、ヤナギの収穫を効率的に行うための作業性を検討するデータ観測を目的として行いました。

サトウキビハーベスタによる収穫



- ・北海道での汎用性はない
- ・刈り取り力、細断力は強い



デントコーンハーベスタによる収穫



- ・北海道での汎用性が高い
- ・コーン向けなので改造が必要



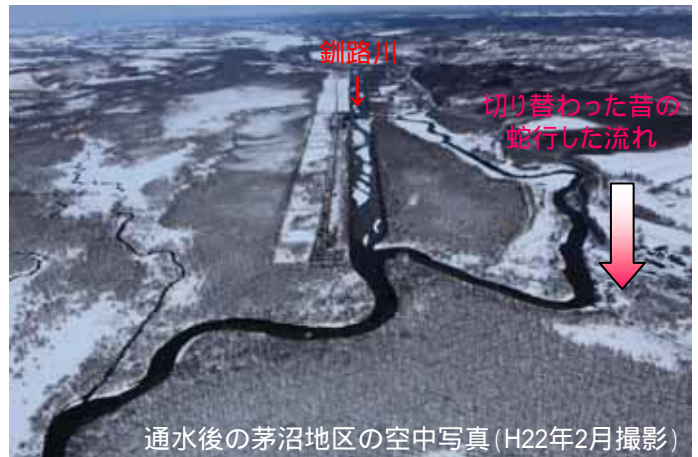
鉏路湿原自然再生～茅沼地区の蛇行復元～

蛇行河川へ切り替わりました

鉏路湿原自然再生協議会では、鉏路湿原の保全・再生のため、様々な取り組みを行っています。

平成19年から鉏路開発建設部が主体となって工事を進めてきた「茅沼地区の蛇行復元」もその取り組みの一つですが、平成22年2月に鉏路川の一部が旧川に切り替わり、昔の蛇行した川に戻りました。

今後、直線河道を埋め戻し、工事が完了する予定です。

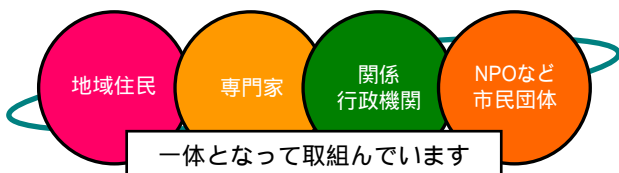


通水後の茅沼地区の空中写真(H22年2月撮影)

フィールドワークショップを開催しました

鉏路湿原自然再生協議会では、茅沼地区の蛇行復元の状況を観察する「フィールドワークショップ」を、平成22年2月28日(日)に蛇行復元箇所にて開催しました。当日は、地域の方々など約60名が参加され、協議会会長らから蛇行復元の概要などについて説明があり、蛇行河川及び周辺環境の観察を行いました。

参加者からは、「実際に曲がった川を見てみると、自然に近づいている実感がわいた」、「鉏路川の蛇行復元を他の河川のお手本としてほしい」などの感想や意見が寄せられ、有意義なフィールドワークショップとなりました。



『鉏路湿原自然再生協議会』は、地域住民、専門家、関係行政機関、NPOなどの市民団体など様々な主体が一体となって協働し、鉏路湿原の保全・再生に取り組んでおり、鉏路管内のみならず世界的にも貴重な「鉏路湿原」を守るための活動を行っています。

詳しくは... http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html



【編集・発行】

北海道開発局 鉏路開発建設部 広報官

〒085-8551 鉏路市幸町10丁目3番地 鉏路地方合同庁舎

TEL 0154(24)7354 FAX 0154(24)7100

鉏路開発建設部ホームページ: <http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/>

平成22年3月31日発行